

# クリスマスラプソディ



かこ

♪クリスマスが今年もやってくる～

竹内まりやの歌声が、近くのケンタッキーから聴こえてくる。  
今年も長蛇の列。

予約してても、並ばなきゃ買えないんだよね。

そんなことを思いながら、ケーキの箱を並べ直す。

美女と野獣。やっぱ男は才能だよね。

竹内まりやと山下達郎と一緒に歌う声を聴くと  
いつも、そんなことが頭に浮かぶ。

彼女は、たぶん達郎の顔に惚れたわけじゃないだろう。

フライドチキン、大好きなんだけどな。  
予約して、並んでまでして食べたいとは思わないな。

寒空の中、サンタ帽子をかぶり、ケーキを笑顔で売りながら、ぼんやり考える。  
足元に電気ストーブ、ポケットにはカイロがあるけど、やっぱり冷える。

店長が、ケーキの箱を大量に抱えて、店から出てきた。  
もちろん、サンタ帽子をかぶっている。

「小林さん、毎年すまないねー、助かるよ。みんな休んじやうからさ」  
「・・・毎年って、去年と今年だけですよ。大げさな」

ケーキ屋でバイトを始めるときから、クリスマスイブは  
休めないことは、覚悟していた。かき入れ時。

だって、そういうものだもの、仕事って。

とは、普通の若いコは思わないらしい。平気で皆、休みやがる。  
パーティがありますから♪とか言って。

「どうせ予定もないですし」

去年はあったんだけどね、本当は。  
でもここのバイトがあるから、予定、入れなかった。

「いや、助かっちゃうよー。そういう人もいてくれないと、よろしくっ！」

ケーキは店頭で飛ぶように売れていく。

以前は6号のケーキが主流だったけど、  
今年は、小さめの5号サイズをたくさん作った。

このお店のケーキは、甘さ控えめで、生クリームがふわふわで、大好き。

前から、ここはお気に入りです、よく通ってて、  
バイト募集の張り紙を見たときは、飛びついて応募した。

でも、クリスマスは、さすがにスポンジまで作りたてって訳にはいかない。  
クリームも固めに作るし、普通の日のケーキのほうが、おいしい。  
入荷するいちごも高くて、イマイチだしね。

カップルや、仕事帰りのお父さん、お子さん連れ、  
いろんな人が、ケーキを受け取っては、幸せそうに帰っていく。

「ありがとうございましたー♪楽しいクリスマスを☆」

今日、何回言ったかな。この言葉。  
やっぱ、忙しいわ。着込んでるけど寒いし。

でもいいんだ。店長の言葉。

我々はケーキを売っているのではない、幸せな時間を創り出しているんだ！

うちのケーキを食べて幸せになってくれたら、それが嬉しい。  
この時期に、お店が暇だったら、それこそやばい。

10時過ぎに、だいたいケーキは無くなり、  
店長から、帰宅許可が出た。

「ありがとねー、これ、ごほうび♪」

サンタ帽子と交換に、手渡されたのは、大きな6号ケーキ。

「店長、これ、一人暮らしの人間に嫌がらせですか？」

「だって、5号ケーキ、完売なもの」

「ですよねー。来年は、もっと小さい4号も作りましょうよー」

「そうだねー。来年も売り子よろしくね。メリークリスマス♪」

「はい、店長もお疲れさまですー」

自転車に、ケーキを積んで走る。

吐く息が白い。夜空に、オリオン座がきれいに見える。

まったく、お疲れさまだ。ケーキと何食べよ。

あー、アスティ・スプマンテ、あったっけ。

開けようかな、クリスマスだしな。

自転車がアパートにつくと、見慣れた男がバイクとともに立っている。

「あれ？中村？」

腐れ縁の学部の飲み仲間。今日はトンカツ屋さんでバイトしてたはず。

「よっ、おつかれー、バイト。ケーキ売れた？」

「うん、大量に。トンカツ、売れた？」

「うん、いやになるほど大量に。パーティーパック1万個作ったよ」

「一万個って……。ま、お互いお疲れさま、で、どうしたの？」

「ケンタ、売れ残ってたから。

買ったけど、一人じゃさすがに食い切れない。小林、好きだろ？」

カーネルサンダースの顔がついたパーティーバーレル。

クリスマスにケンタが売れ残るか、バカ。

思わず、くすくす笑ってしまう。

いつから待ってたんだろ？ここで。

少し触れた手が、すごく冷たい。

「私も、一人じゃ食べきれないほど大きいケーキがあるの。

一緒に食べる？他にも誰か呼ぶ？」

「・・・誰かって、この時間に迷惑だろ」

「そうだねー。予定もあるだろうしね。

淋しい暇人は、私たちくらいだよね、きっと。

アスティスプマンテもあるよ、飲む？二人で。」

「お、いいね」

バイクじゃ、帰れなくなっちゃうね、ま、いっか。

だって、今日は、クリスマスイブだもの。

Merry Christmas！！

## クリスマスラブソディ

<http://p.booklog.jp/book/60146>

著者：かこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kakococoro/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/60146>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/60146>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ